

第5次地域福祉活動計画推進委員会(第3回) 会議の概要

〈日 時〉平成29年12月25日(月) 13時30分～15時00分

〈場 所〉市社協 第2会議室(市立総合福祉会館2階)

委員長あいさつの後、次第に沿って進行した。

- 1 第5次地域福祉活動計画書(案)について
- 2 第5次地域福祉活動計画書(案)への意見聴取について

資料に基づき事務局から、一括で説明した。

説明後、委員長から出席委員に意見・質問等を求めたところ、次の発言があった

(委員)

4ページの市社協の主な取り組みのところに、ふれあいお弁当がある。報道等でもあったが、横須賀市から廃止の方向が示された。このまま市社協の行動計画に掲載するか。

(事務局)

ふれあいお弁当はお弁当の配達だけではなく、安否確認見守り、地域と利用者のふれあい等、他にもいろいろな目的がある。お弁当を使った今のやり方は終了するとされたが、事業が担っていた課題は、そのまま山積されているので、その課題に対して、これからどうするか地域のみなさんと考えてかなければならない。そうした今後の対応も含めた掲載となると考えている。

(委員)

「活動計画書の活用方法」の一番下のヒント集のところに加えたという、「市社協へご相談ください」のところを、はっきり伝えたいのであれば、行を変えてわかりやすくしたほうが良いのではないか。

(委員長)

技術的な話になるが、下から2行目のところで、「また」をとって、改行し、字体を変えたり、アンダーラインを引くことで、強調され、わかりやすくなる。

(委員)

この計画書は誰を対象としているのか。全戸配布はするのか。

(事務局)

計画書を全戸配布するということは今までも行ってきておらず、今回も行わない予定でいる。

この計画書を見ていただきたい対象としては、この計画は、「生活」と「地域活動」というかたちで、大きく二つに分けられており、「生活」というテーマでは、地域住民全体を対象としていることから、市民の多くに見ていただきたいものではあるが、主に地域福祉の担い手のみなさんを中心に見ていただくものになると思う。

(委員)

あまり、地域の活動に関わっていない市民が見てもわからないところがあると感じる。ただ、主に地域の活動に参加している人が見るのであれば、こうした内容に慣れているのでわかるのだろうとは思いますが、例として、5ページの生活の課題キーワードが雲のかたちのところだが、いろいろあるのだろうということのほうがえるが、具体的には、よくわからないとなる。

また、キーワードの雲の中心を、「生活」ではなく、「支えあう仕組みづくりと実践」、7ページなら「交流」ではなく、「交流の大切さと相互理解」としてはどうか。「課題」と「取り組み課題」「問題」とあるため、目標との関係が一目で入って来ない。

(委員長)

見開きで見た時に、課題から目標への流れを示すため、矢印を入れてはいるが、今のかたちだと、体系図にある課題から目標の関係が、一目で入ってこないのだろうと思う。全体理解につなげるため、課題と目標を A3の両面1枚でまとめ、体系図の1から7の課題を小さく、目標を大きくし、強弱をつけ、目標に視線が行くようなものをつくってはどうか。

(委員)

ダイジェスト版を作成する予定はあるのか。あれば、そちらで取り込めるのではないか。

(事務局)

第4次計画では、本書はページ数が多く、逆にダイジェスト版は簡略化し過ぎて不足感があった。第5次の計画書は、第4次の本書とダイジェスト版の中間のようにし、使いやすいものを目指しているため、あらためてダイジェスト版は作成しない予定になっている。

(委員)

課題があるから目標があるという対応のわかるものが、裏表ではなく、一目で見られるものが良いのではないか。

(事務局)

最初にまず、A3見開きの体系図のようなものを見てもらって全体を把握してから、説明に入れる工夫があったほうが良いというご意見かと思う。

(委員)

5ページ以降の左ページの上の「取り組み課題」の下に「～代表的な地域の現状・抱える問題～」とあるが、「代表的な地域」のところで、文章を区切って読むことも出来るため、わかりづらい。また内容的にもわかりづらいところがある。

(委員)

「取り組み課題」よりも、その下の「～代表的な地域の現状・抱える問題～」ほうが表現がやさしく、内容が伝わりやすい。取り組み目標ともつながるように思う。

(事務局)

本書3ページの体系図を見てもらうとわかるが、この部分は、その体系図にあるとおりを、柱ごとに掲載してある。体系図そのものがどうかという議論もあろうかと思うが、第5次計画では、この部分は第4次計画のまま活かすとしている。どうしても計画書は字を追って行くものなので、体系図が意識されないと、体系図の文言が急に出てくるような感じになり、わかりづらいとなる。そういったところを、わかっていただけるように見せ方の工夫をしたい。

(委員)

5ページ以降の見開き左ページ上の「取り組み課題」のところは、見出しとか項目といった内容のもので、その下の「～代表的な地域の現状・抱える問題～」のところが実際の課題となっている。そのため取り組み課題のところを、課題とすると、わかりにくいのかと思う。

(委員)

課題とヒント集に関連を持たせたとのことだが、個人で取り組めることと、組織で取り組めることがわかれておらず、脈絡がない。個人と組織でわけ、整理してはどうか。また、説明の中で、どこの地域でとりくまれているかについて地域名を書かないとのことだが、身近で活用しやすい計画にするなら、どこの地区での取り組みかを記載したほうが良いと考える。

声にはいろいろな視点があって良いとは思いますが、ヒントは具体的に分かるものにするが良い。ヒントを読む人に伝わるものにする必要があるのではないかと。

(委員)

ヒント集なので、より活用しやすいものにすべきと考える。ヒントを読んだ方が、モチベーションがあがるようなものが望ましいが、現在のものは、ひとごとのように感じ、身近に感じない。ヒント集なのだから、言い回しを変えて提案型にすることも必要ではないか。男性介護者のヒントがあるが、「体験を共有する場をつくる」といったかたちにしてはどうか。

(委員)

課題とヒントを、個人でやること、組織でやることで、わかるのは難しいように感じる。また、地理的な問題や、交通の問題等、個人や、組織が取り組んでも、どうにも出来ないものは記載しなくてもよいのではないかと。

(委員)

18ページの下、活動ヒント集の5つ目の部分の文末が「～いけるとよい」となっている。少し突き放されたような表現で、社協が遠くから傍観しているように感じる。

(委員)

それぞれの立場での発言内容だから仕方がないが、読んだ方が能動的にとらえてもらえるように、活動する立場に立った側からの書き方に改めてはどうか。

発言内容をそのままではなく、それを主旨として提案してはどうか。

(委員)

地区懇談会では、参加者がいろいろ自由に話すが、その言葉のままではなく、その内容を踏まえて、提案していくようなかたちにしてはどうか。

(委員)

地域福祉活動計画をテーマにした地区懇談会を実施することが望ましい。

(委員)

言葉の表記だが、平仮名と漢字の使い方が混在している等しているので確認して欲しい。

(委員)

例えば、子供でも、子ども会なら漢字は「子」だけ、こども育成部であれば、全てひらがなが正式な表記となる。それ以外の場面で出てくる「こども」や、他にも「ひとりぐらし」等の表記も統一したほうがよい。

(委員)

6ページのヒント集に「新米」という表現があるが、普段あまり使わないように思う。もとの発言にこだわらず、理解しやすい表現にしたほうが良いのではないか。

(委員)

9ページから10ページの下に、犯罪をおかしてしまった方に対しての声、ヒントがあるが、少しわかりにくい。地域の皆さんが理解してくれるような表現にしたい。

3 今後のスケジュールについて

4 その他

資料に基づき事務局から、一括で説明した。

次回開催日の日程調整を行い、2月22日(木)10時00分から開催されることとなった。

以上で、推進委員会(第3回)を終了し、散会した。